

18 スポーツクラブ大内

設立の趣意

既存のスポーツ団体を中心とし設立。活動実態はクラブによって差異はあるが少しでも多くの方々に楽しみを持ち心身共に充実した生活と地域活性化に寄与することを目的とする。

シンボルマーク

シンボルマークは考案中（スポーツを通じて笑顔の輪を広げよう）がクラブ愛唱言葉。

クラブ名の由来

地区をアピールする事を前提に「スポーツクラブ大内」とした。

基礎 DATA

会員数 **125名** ●男性 65名 ●女性 60名

●小学生 15名 ●中学生 20名
●一般 25名 ●60歳以上 65名

住所：〒981-2501

丸森町大内字横手 82-1
大内まちづくりセンター内

TEL：0224-79-2004

FAX：0224-73-3008

E-mail：y-sekinuma@town.marumori.miyagi.jp

URL：http://www.town.marumori.miyagi.jp/machisen/ouchi-machi/supo-tu/index.html

対象エリア：丸森町

対象エリアの人口：13,929人

教育環境：小学校／8校 525名

中学校／1校 332名

高校／1校 283名

設立年月日：平成24年7月19日

設立母体：卓球、バスケットボール、剣道

グラウンドゴルフ、バトミントン

太鼓、少年剣道、バスケット愛好会

指導者数：総数 10名（有資格者／3名）

（無資格者／7名）

設立の過程

●平成 23 年度

町の指導のもとスポーツクラブ設立に向けた講習会等（事例発表：南光台東エンジョイ倶楽部）に出席しクラブ設立の必要性を感じる。

設立に向けた書類の整備に着手する（11月～12月）。

●平成 24 年度

平成24年7月に設立総会を関係者で行い本格活動に入った。

●平成 25 年度

設立2年目に入り新たに2クラブ（少年剣道・バスケットボール愛好会）が加入し150名近い会員となった徐々に会員増加の傾向にあり。

●平成 26 年度

昨年（H25）2クラブ増加し既存クラブもクラブによっては近隣の親善試合等に参加し楽しみが更に増しております。懸念される少子高齢化による会員の減少に何とか新たな対策（ニュースポーツ紹介）等を以ってスポーツの楽しさを知ってもらいたいと企画中…（6月より太極拳教室開始全10回）。

●平成 27 年度

totoの助成金の申請は H27は行わず、会員会費による運営のみとしており既存のクラブが活動を行っております。

少子化が特に懸念される中、スポーツに限らず県体育協会の指導のもと地域事業等に講師として派遣いただき教授いただいております。

●平成 28 年度

totoの助成金申請を今年度も行わず、会員会費による運営のみとしており既存のクラブが活動を行っております。

少子化によりスポーツ少年団体の活動に活動が少なくなっている中、スポーツに限らず県体育協会の指導のもと地域事業等に講師として派遣いただき教授いただいております。

●平成 29 年度

会員会費による運営のみとしており既存のクラブが活動を行っております。

活動プログラム

スポーツ・レクリエーション種目

（教室）
少年剣道、空手、健康運動教室、太極拳

（サークル活動）

卓球、剣道、太鼓教室、グラウンドゴルフ、ゲートボール、バスケット愛好会

（イベント）

球技大会（6月～9月）、野球・卓球・ソフトバレー、ソフトボール、グラウンドゴルフ、ふるさと大内健康まつり（10月）行政区対抗運動会、グラウンドゴルフ大会、ゲートボール大会

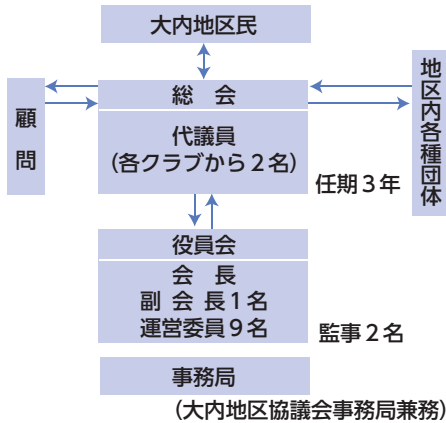
文化活動種目

（教室）
民謡教室、舞踊教室、書道教室、生きがいづくり大内

（イベント）

ふるさと大内芸能まつり、ふるさと大内文化祭、新相馬節全国大会

組織図

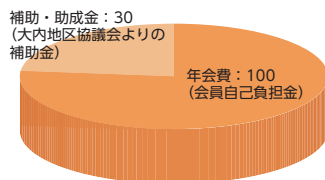


平成29年度 役員

会長 矢吹 仁一郎（協議会会長）
副会長 菅野 憲一
運営委員（各クラブ代表者）
監事 富倉 守・荒 祐一
顧問 目黒 孝一・大内河今朝治

活動費

予算総額：130,000円



クラブ中の単位：千円

管理施設

指定管理施設

大内まちづくりセンター及び付属施設（青葉コミセン・伊手コミセン）、大内山村広場

※全ての施設を大内地区協議会が丸森町よりの指定管理施設

活動施設

市町村公民館等施設

大内まちづくりセンター及び付属施設（青葉コミュニティセンター・伊手青葉コミュニティセンター）、大内山村広場、旧大内中学校体育館

学校体育施設

大内小学校グラウンド、大内小学校体育館

設立による効果等

- 地域住民間の交流が活性化した
- 世代を超えた交流が生まれた
- 地域の連帯感が強まった
- 地域が活性化した
- 地域で子どもたちの成長を見守る機運が高まった
- 元気な高齢者が増えた
- 子どもたちが明るく活発になった
- 地域住民のスポーツ参加機会が増えた
- 特に変わりがない

